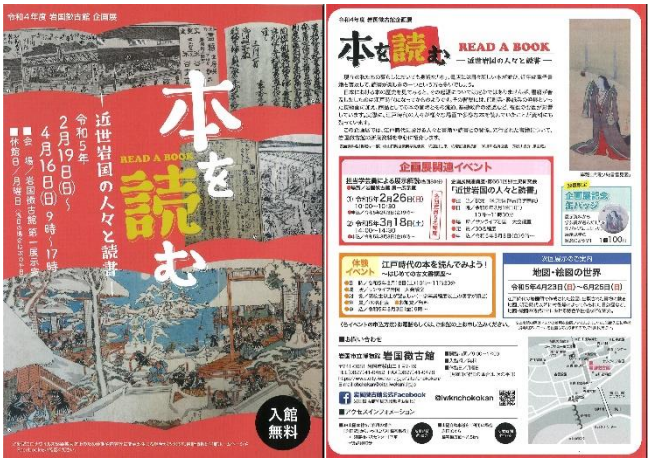
【企画展１】

本を読む　―近世岩国の人々と読書―



１.概要

書籍が普及した江戸時代における人々と読書の関係や、実際に発行された書籍について当館所蔵の文書資料を中心に紹介する。

（担当学芸員：枝元　咲）

２.会期

令和５年２月 19 日（日）～４月 16 日（日）

ただし、月曜日休館

３.開館日数　49 日（うち令和５年度 14 日）

４.入館者数　5,940 人（うち令和５年度 1,836 人）

５.展示目録

No.	資料名	時代	備考
１章　本の広がりとその背景			
江戸時代以前の書物と人々			
1	前賢故実	江戸時代後期	岩国学校教育資料館
2	江談抄	江戸時代頃	
3	聚分韻略	江戸時代中期	
本を受容する人々			
4	元春公以下吉川什書目録	明治時代	
5	当家御条目御家中法度	享保８年（1723）	
6	御触出控　弐	江戸時代末期頃	
7	稚六芸ノ内・書数	江戸時代後期	東京都立図書館
8	庭訓往来	江戸時代中期	
9	商売往来	天保７年（1836）	岩国学校教育資料館
10	普救類方	享保 14 年（1729）	
本をとりまく技術の発展			
11	山口県巨豪商早見便覧	明治 19 年（1886）	
12	国史臆議	明治 14 年（1881）	
13	四書正文	安政２年（1855）	
14	清狂詩鈔	明治２年（1869）	
15	元寛日記	江戸時代中期頃	
16	摂津名所図会	寛政 10 年（1798）	
17	滑稽道中　宮島みやげ	嘉永４年（1851）	
18	諸役所仕法書	寛政９年（1797）頃	
19	岩国領絵図（部分）	慶応３年（1867）頃	
２章　本の役割と読書の展開			
学習手段としての読書			

20	御用所日記	正徳元年（1711）	
21	御用所日記	宝暦４年（1754）	
22	日帳	嘉永７年（1854）	
23	明儒学案	江戸時代末期頃	
24	宇都宮遯菴像（部分）	江戸時代中期	
25	鼇頭近思録	延宝６年（1678）	
26	近思録	弘化３年（1846）	
27	経典余師	天明元年（1781）	
28	論語	江戸時代後期	
29	教訓書　寺子・築山	江戸時代中期	
30	女大学宝箱	享和２年（1802）	
個人的読書の目的			
31	医道日用綱目	安永９年（1780）	
32	農業全書	元禄 10 年（1697）	
33	柳井種痘日記	安政７年（1860）	
34	信長記	元和８年（1622）	
35	靖献遺言	元治元年（1864）	
36	博物新編	元治元年（1864）	
37	栗栖氏蔵書目録	明治 23 年（1890）	
38	茅窓漫録	天保４年（1833）	
39	新論	文政８年（1825）	
40	新論	江戸時代後期頃	
41	自画像図賛	明治 14 年（1881）	
42	安政武鑑	安政７年（1860）	
43	陰徳記之儀付伺書写	宝永３年（1706）	
44	陰徳太平記	文政 10 年（1827）	
３章　読み継がれる文学			
45	滑稽道中 宮島みやげ	嘉永４年（1851）	
46	南総里見八犬伝	天保 13 年（1842）	
47	源氏物語	江戸時代頃	
48	源氏物語	承応３年（1654）	
49	紫文製錦	文化４年（1807）頃	
50	都名所図会	安永９年（1780）	
51	百人一首	江戸時代	
52	百人一首かるた	江戸時代	
53	清少納言雪見図	弘化３年（1846）	
54	絵本故事談	正徳４年（1714）	
55	忠臣蔵	江戸時代末期頃	
56	絵本和漢誉	嘉永３年（1850）	

※資料番号に下線があるものは、パネル展示

※備考欄に表記のない資料は、すべて岩国徴古館蔵

6.関連行事

（1）関連講座（郷土史研究会として開催）

演題：「近世岩国の人々と読書」

講師：枝元　咲（当館学芸員）

日時：令和５年３月 19 日（日）10 時～11 時 30 分

場所：サンライフ岩国　大会議室

参加者：38 人

（2）担当学芸員による展示解説

日時：①令和５年２月 26 日（日）10 時～10 時 30 分

②令和５年３月 18 日（土）14 時～14 時 30 分

場所：岩国徴古館　第一展示室

参加者：計 14 人

（3）展示関連イベント「江戸時代の本を読んでみよう！～はじめての古文書講座」

日時：令和５年３月 18 日（土）10 時～11 時 30 分

場所：サンライフ岩国　大会議室

参加者：10 人

展示関係イベント「江戸時代の本を読んでみよう！～はじめての古文書講座」の様子

7．刊行物　　企画展記念缶バッジ　岸龍山「清少納言雪見図」　1 個 100 円